

OTTO Stereo Cassette Deck

RD-V40



**ステレオカセットデッキ
取扱説明書**

上手に使って上手に節電

お買い上げいただきありがとうございました。RD-V40の機能を十分に発揮させ、効果的にお使いいただくために、お使いになる前にこの“取扱説明書”を最後までお読みください。お読みになった後は、保証書とともに大切に保管しておいてください。

万一お使いになっているうちに、わからない事がございましたら、今一度お読みかえしてください。

目次

安全上のご注意と取扱上のご注意	2
各部の名称とその働き	3～4
録音、再生の前に	5～6
接続のしかた	7
再生のしかた	8
録音のしかた	9～10
タイマー録音のしかた	11
巻戻しと早送りのしかた	12
録音の消去	12
お手入れのしかた	13
保証とアフターサービスについて	13
故障かなとお考えになる前に	14
仕様	裏表紙

あなたがラジオ放送、レコード、その他の録音物などから録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上の権利者に無断で使用できません。

《ステレオ音のエチケット》

- 楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮[おもいやり]を十分にいたしましょう。
- ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。
- 窓を締めたりヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
- お互に心を配り快よい生活環境を守りましょう。

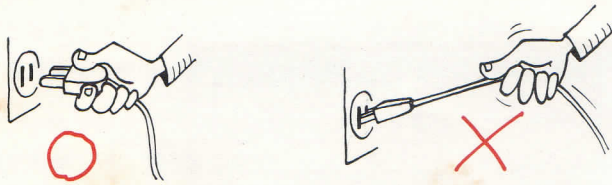
安全上のご注意と取扱上のご注意

安全上のご注意

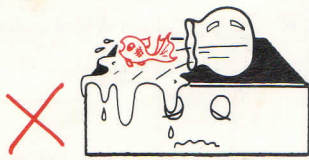
●このカセットデッキは交流[AC] 100V用です。必ず100V電源でお使いください。電源周波数は50Hz地域でも60Hz地域でもお使いになれます。

●電源コードや接続コードを抜く場合は、必ずプラグを持って抜いてください。またコードを傷つけたり、継ぎたしたりしないでください。

ぬれた手では絶対にさわらないでください。



●花びん、金魚ばちなど水の入ったものはセットの上に置かないでください。万一内部に水をこぼした時は、ただちに使用を中止してお買い上げの販売店にご相談ください。



●内部に針、ヘアピン、硬貨などの金属類を入れると感電や故障の原因になります。特にお子様にご注意ください。

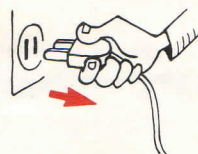
●キャビネットは絶対はずさないでください。内部に手を触れると感電することがあります。サービスはサンヨーのサービス店におまかせください。

セットを絶対に分解しないでください。



●お使いになった後は、必ず電源を切っておいてください。また長期間お使いにならないときは、電源コードをコンセントから抜いておいてください。

POWER

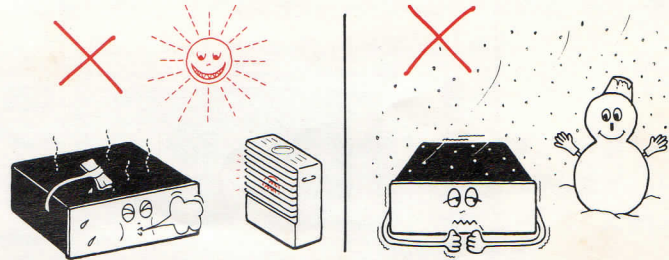


取扱上のご注意

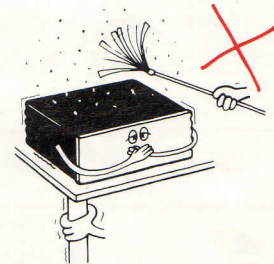
●タイマーを使って録音する時以外は、電源を入れる前に、タイマーレコードスイッチが“OFF”になっていることを確認してください。“ON”にして電源を入れると、デッキは自動的に録音状態になり録音テープを消してしまうことになります。

●次のような所にデッキを設置しないでください。

※暖房器具のそばなど温度が非常に高い[40°C以上] 所や直射日光のあたる所、また極端に温度の低い所[5°C以下]。



※湿気、ほこり、振動の多い所や磁気の発生する所。

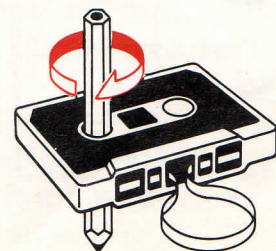


※水平な所でお使いください。傾けたり、前面パネルを上にして置かないでください。

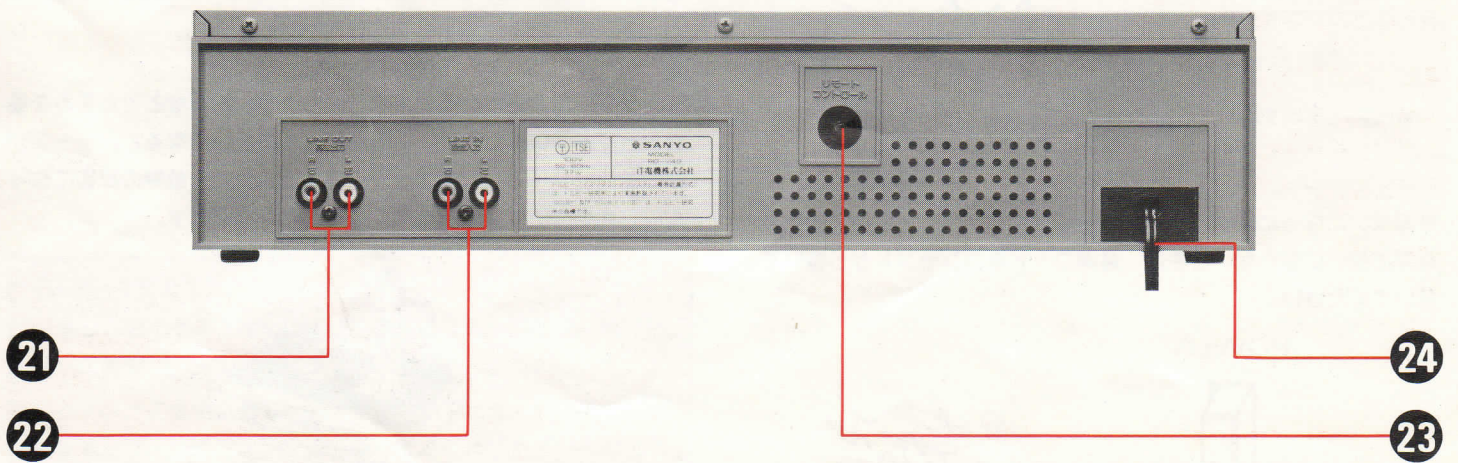
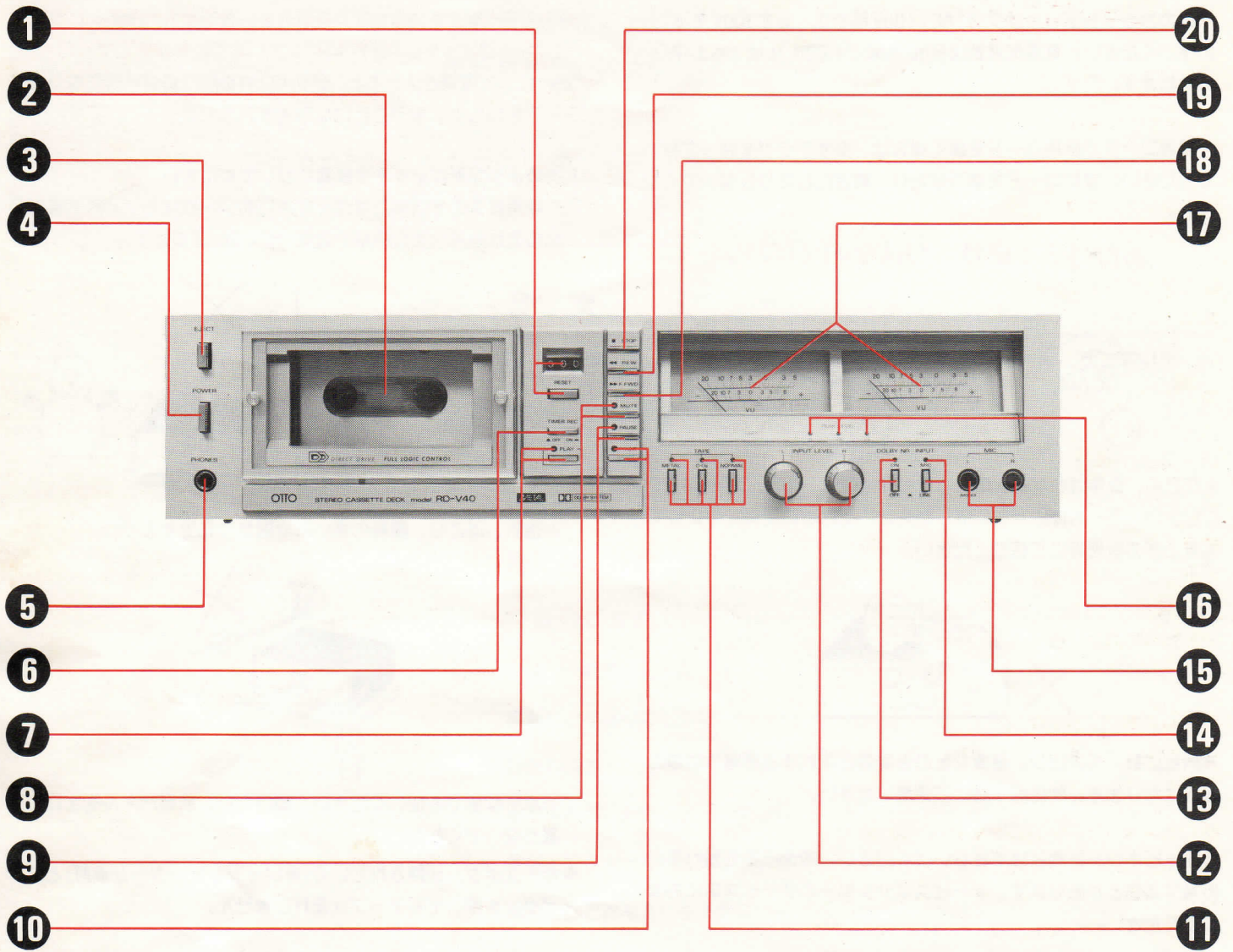
●ポーズボタンが押されている[赤いインジケーターが点灯]とプレイボタンを押してもテープは走行しません。

●良い音を楽しむために、ヘッドはいつもきれいにしておいてください。ヘッドの清掃については13ページをごらんください。また磁石、ドライバーをヘッドに近づけないでください。

●テープにたるみがあるときは、図のように鉛筆などでたるみを巻き取ってお使いください。たるんだままお使いになると、テープがピンチローラーやキャプスタンに巻き込まれて、故障の原因になったり、大切なテープが使えなくなることがあります。



各部の名称とその働き



①テープカウンターとリセットボタン〔RESET〕

テープの走行につれて数字が変わりますので、後で再生する時の目安になります。リセットボタンを押すと、カウンターの数字が“000”になります。➡6ページ

②カセットホルダー

ここにカセットを入れます。➡5ページ

③イジェクトボタン〔EJECT〕

押すとカセットホルダーのふたが開きます。

④電源スイッチ〔POWER〕

押すと電源が入り、メーターとカセットホルダーの照明が点灯します。電源を切る時は、もう一度押してください。

⑤ヘッドホンジャック〔PHONES〕

録音する音をモニターする時や、一人でテープをお聞きになる場合に、別売のヘッドホン〔8Ω〕を接続します。使用後は、必ずヘッドホンを抜いておいてください。

⑥タイマーレコードスイッチ〔TIMER REC〕

別売のオーディオタイマーを使って、留守録音をする時に使います。〔ツメを折ったカセットをお使いになると、目覚し再生もできます〕それ以外の時は、必ずスイッチを“OFF”にしておいてください。

➡11ページ

⑦プレイボタン〔PLAY〕とインジケータ

再生や録音をする時に押します。押すと緑のインジケータが点灯します。

⑧レコードミュートボタン〔MUTE〕とインジケータ

録音中にこのボタンを押し続けると、押している間だけテープを止めて音声だけをカットして、テープ上に無録音部分をつくることができます。押している間インジケータが点灯します。

➡10ページ

●録音中にこのボタンを押すと音声がかットされ、何も録音されませんので、必要な時以外は押さないでください。

⑨ポーズボタン〔PAUSE〕とインジケータ

録音や再生中、テープを一時的に停止させる時に押します。押すと赤のインジケータが点灯します。もう一度押すとインジケータが消えて、テープは再び動き始めます。

⑩レコードボタン〔REC〕とインジケータ

録音する時に、プレイボタンと一緒に押します。レコードボタンとプレイボタンと一緒に押して、デッキが録音状態になると、赤のインジケータが点灯します。

⑪テープ切換スイッチ〔TAPE〕とインジケータ

使用するテープに合ったイコライザー特性とバイアス電流を選びます。スイッチを押すと、押されたスイッチの上のインジケータが点灯します。➡5ページ

⑫録音レベル調節つまみ〔INPUT LEVEL〕

録音レベルを調節する時に、2つのつまみを使って調節します。“L”は左チャンネル用、“R”は右チャンネル用です。➡10ページ

⑬ドルビNRスイッチ〔DOLBY NR〕とインジケータ

スイッチの働きについては、6ページをごらんください。スイッチを押すとインジケータが点灯します。

⑭入力切換スイッチ〔INPUT〕とインジケータ

マイクで録音する時は、スイッチを押して“MIC”に〔インジケータが点灯する〕、ライン入力ジャックから録音する時は、もう一度押して“LINE”〔スイッチが出ている状態〕にします。

⑮マイクジャック〔MIC〕

ステレオ録音する時は、2本のマイクを接続します。マイク1本でモノラル録音する時は、必ず左〔L〕のジャックに接続します。ステレオ録音する時は、同一性能、規格のマイクを使用してください。インピーダンス600Ω～10kΩのマイクが使えます。

⑯ピークインジケータ〔PEAK LEVEL〕

V Uメーターの針の振れでは追従できない、瞬間的な高いレベルの信号が入ったときに点灯します。

⑰V Uメーター

録音時には録音されるレベルを、再生時には再生レベルを示します。

⑱早送りボタン〔FFWD〕

テープを早送りする時に押します。

⑲巻戻しボタン〔REW〕

テープを巻き戻す時に押します。

⑳ストップボタン〔STOP〕

テープの走行をとめる時に押します。

㉑ライン出力ジャック〔LINE OUT／再生出力〕

再生用のジャックです。ステレオアンプの入力ジャックに接続します。➡7ページ

㉒ライン入力ジャック〔LINE IN／録音入力〕

録音用のジャックです。ステレオアンプの出力ジャックに接続します。➡7ページ

㉓リモートコントロールジャック

別売のリモートコントロールボックス〔RB-01〕を接続します。RB-01をお使いになる時は、ジャックの上にはあってあるラベルをはがしてから接続してください。リモートコントロールボックスをお使いになると、セットからはなれて、機械的な操作をすることができます。詳しい使いかたは、RB-01の説明書をごらんください。

㉔電源コード

ステレオアンプのコンセントかご家庭のコンセントに接続します。

録音・再生の前に

カセットについて

取扱上のご注意

●C-120カセットテープ

このテープは往復録音時間120分という長時間録音用のため、テープが非常に薄く、そのためテープが伸びたり、機械に巻き込んだりすることがありますのであまりおすすめできません。録音用にはC-46、C-60、C-90テープをお使いください。

●テープに巻きムラがあるときは、お使いになる前に、全長にわたって早送りや巻戻しをしてからお使いください。

●テープを引き出したり、指で触れたりしないでください。

保管上のご注意

●暖房器具のそばや、長時間直射日光のあたるところに放置しないでください。

●テレビやスピーカーの上など磁気の影響を受けやすいところに放置しないでください。

●ホコリや湿気の多いところに放置しないでください。保管するときは、プラスチックのケースに入れて保管してください。

カセットの入れかた

- 1 イジェクトボタンを押して、カセットホルダーのふたをあけてください。
- 2 テープの見える方を下に、テープが巻かれている方を左側にし、録音または再生したい面を手前に入れて入れます。



- 3 カセットホルダーのふたをカチッと音がするまで押して、完全にしめてください。



カセットの取り出しかた

イジェクトボタンを押し、カセットホルダーのふたを開けて取り出します。デッキが動作状態でも直接イジェクトボタンを押すことができます。イジェクトボタンを押すと、デッキは自動的に停止状態になります。

大事な録音を誤って消さないために

カセットの後側にあるツメを折ると、誤って大事な録音を消してしまうことがあります。



第1面の録音を残しておきたい場合はツメAを、第2面の時はツメBを折ります。

ツメを折ったカセットに録音する場合は、穴の上にセロテープをはると再び録音することができます。



〈ご注意〉

ツメを折ったカセットを使って、レコードボタンとプレイボタンを押してもレコードインジケータは点灯せず録音状態にはなりません。プレイインジケータが点灯して、デッキは再生状態になります。

テープの種類とテープスイッチの位置

●ノーマルテープ〔LN・LH〕

このテープは、磁性材に酸化鉄〔 $\gamma\text{-Fe}_2\text{O}_3$ 〕を使用したもので、一般に広く使用されています。

●クロームテープ〔CrO₂〕

磁性材に二酸化クローム〔CrO₂〕を使用したテープで、高域の最大出力レベルや再生出力が大きいという特長があります。

●メタルテープ〔METAL〕

ノーマル、クローム、フェリクロームテープが酸化鉄を磁性粉として使用しているのに対し、メタルテープは酸化しない純鉄〔Fe〕を主原料とした磁性合金テープです。

磁性材を塗布するベースフィルムは従来のテープとほぼ同じであるため、その物理的、機械的特性に大差はありませんが、電磁気的特性はすぐれており、次のような特長があります。

1. 高入力レベル時の録音再生周波数特性がすぐれている。
2. 全周波数帯域で最大出力レベルが高い。
3. 高域周波数でのダイナミックレンジ〔音をひずみ少く録音・再生できる音の大きさの範囲〕が広い。
3. 高域周波数での雑音が少ない。
5. 高入力レベル時でのひずみが少ない。

●メタルテープで録音される場合は、このテープの高域特性を十分発揮させるため、録音される前にヘッドをきれいにしてください。

➡13ページ。

●メタルテープに付属の説明書もよくごらんください。

テープの種類	テープスイッチの位置
ノーマル〔一般〕テープ サンヨー LN II、LH など <small>〔フェリクロームテープは "NORMAL" の位置でお使いください〕</small>	
クロームテープ OTTO CD など	
メタルテープ OTTO ME など	

ドルビー NR スイッチ

NR = NOISE REDUCTION [雑音低減] の略

ドルビー NR とは、録音時テープに生じるヒスノイズ〔サーという主に高域成分の雑音〕を減らすシステムです。ヒスノイズは高い周波数ですから比較的低いレベルの信号を録音するときに、高音域の信号を増強して録音し、再生するときに増強した分だけ減衰させて再生します。このため信号の成分は正常のレベルになり、ヒスノイズは減衰した分だけ低減できるわけです。このシステムにより、SN比が 1kHz で約 5dB、5kHz 以上で約 10dB 改善できます。

●ドルビーシステムで録音したテープはかならずドルビー NR スイッチ "ON" で再生してください。

●ドルビー録音したカセットは、その旨をラベルにメモしておくことで間違えて普通の再生をすることがなくなります。

ドルビー NR で録音、再生する場合。



ドルビー NR で録音しない場合、またはドルビー NR で録音していないテープを再生する時。



ドルビーノイズリダクションシステム〔雑音低減方式〕は、ドルビー研究所により実施許諾されています。

“Dolby” 及び “Double D [DD]” は、ドルビー研究所の商標です。

テープカウンターの使いかた

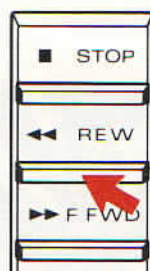
テープの進行とともにカウンターの数字もかわりますから、各録音の始めと終りの数字と録音内容をメモしておく、後で再生する時や、後追い録音する時のプログラムの頭出しに便利です。

001 ~ 124

126 ~ 153

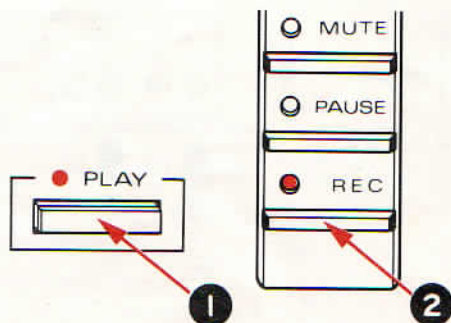


テープを全部巻き戻し、リセットボタンを押してカウンターの数字を “000” にしてから録音を始めてください。



アフターレコーディング〔後追い録音〕

再生状態から直接録音状態にすることができます。再生中、テープを止めずに直接録音状態にする場合は、プレイボタンを押したままレコードボタンを押すと録音状態になります。レコードミュートボタンを使って無録音部分〔ブランク〕部分を作ったテープなどに、後からナレーション等を録音する時などに便利です。



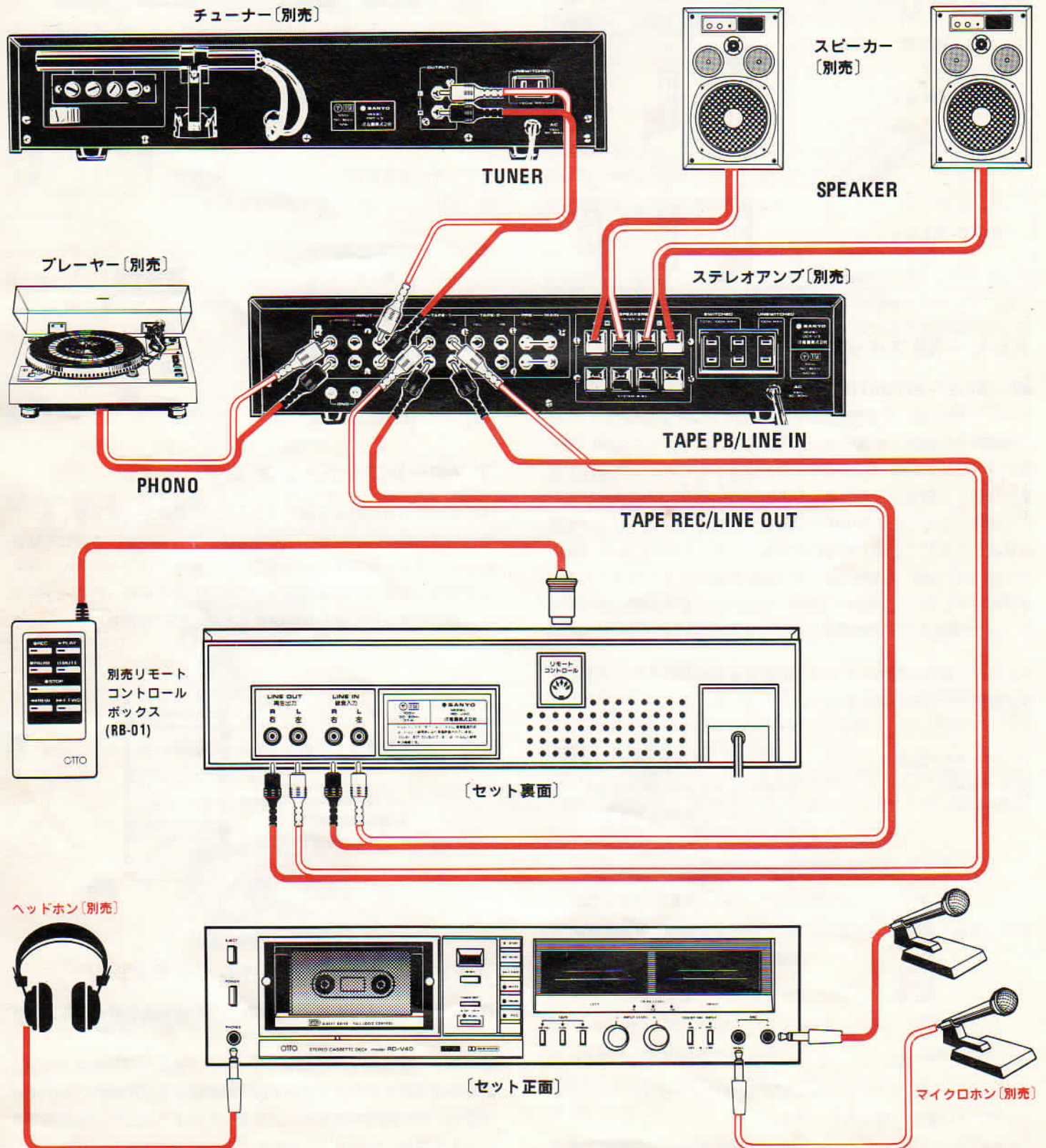
フルオートストップとダイレクトチェンジ

録音、再生、早送り、巻戻し中にテープが全部巻き取られると、デッキは自動的に停止状態になります。

このデッキはロジック IC 採用のダイレクトチェンジ方式ですので、動作中イジェクトボタンを押すか、電源を切ると自動的に停止状態になり、また動作中にストップボタンを押すことなく、他の操作ボタンを直接押して別のプレイをすることができます。

接続のしかた

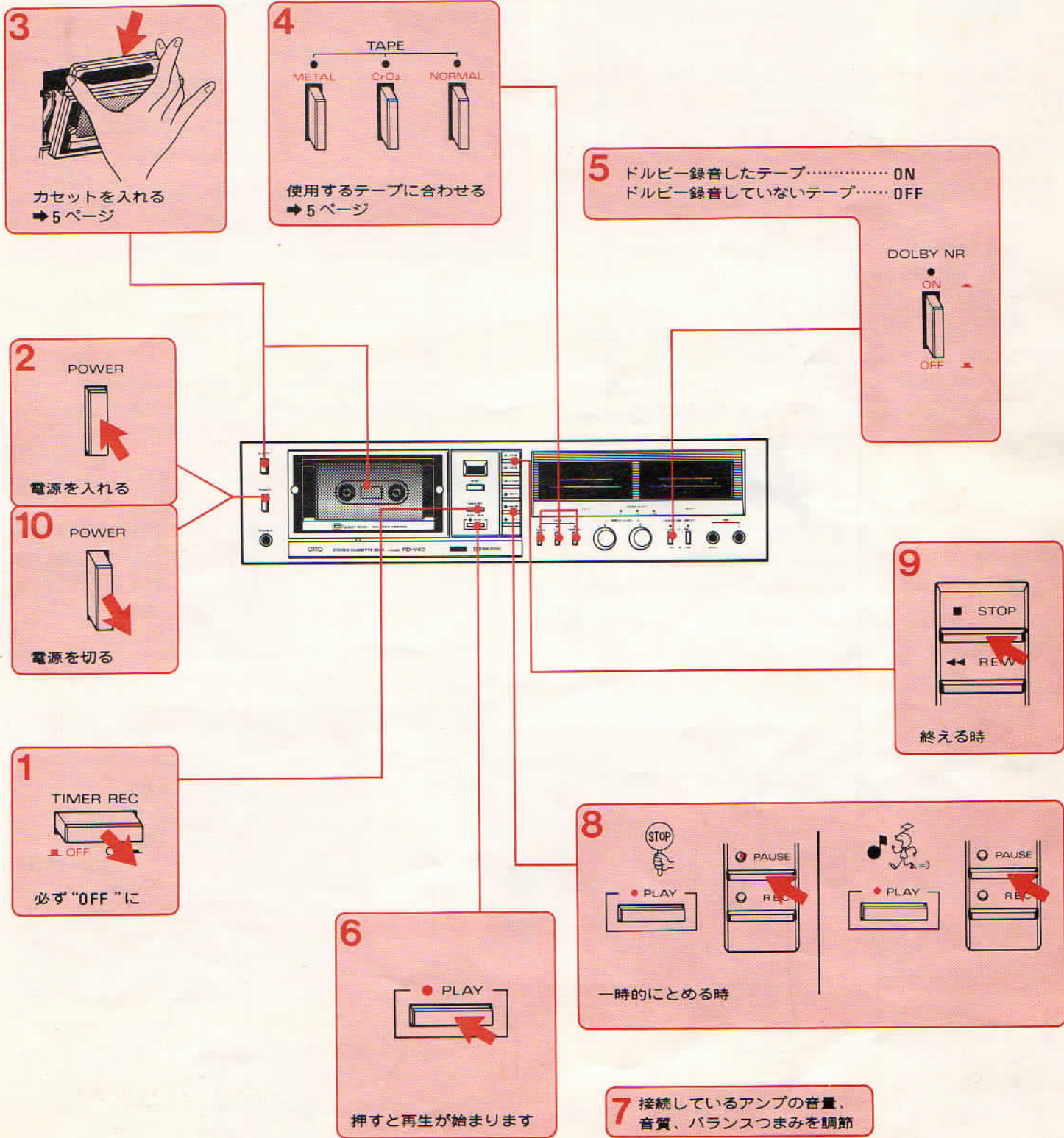
- ステレオアンプとテープデッキの電源を切ってから接続してください。
- 接続コードのプラグはねもとまで完全に差し込んで接続してください。
- マイクは2本とも同一性能・規格のものをご使用ください。
- 右(R)チャンネルと左(L)チャンネルを間違えないために、接続コードの赤い方を右(R)、白い方を左(L)に接続してください。



再生のしかた [番号順に操作してください]

●タイマーレコードスイッチが、“OFF”になっていることを確認してから、電源を入れてください。

- 接続のしかた⇒7 ページ
- テープカウンターの使いかた⇒6 ページ



録音のしかた [番号順に操作してください]

- 接続のしかた⇒7 ページ
- テープカウンターの使いかた⇒6 ページ
- レコードミュートボタンの使いかた⇒次のページ

4

RESET

“000”に

3

カセットを入れる

2 POWER

電源を入れる

12 POWER

電源を切る

1 TIMER REC

必ず“OFF”に

10

MUTE
PAUSE
REC

PLAY

ポーズを解除して録音開始

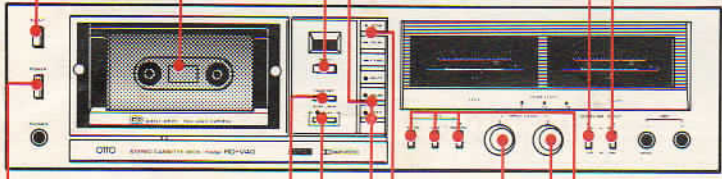
5 DOLBY NR

ON
OFF

ドルビーNR で録音……………ON
ドルビーNR を使わないで録音……………OFF

6 ライン入力で録音……………LINE
マイクで録音……………MIC

INPUT
MIC
LINE



7

TAPE

METAL CrO₂ NORMAL

使うテープに合わせる

8

MUTE
PAUSE
REC

PLAY

最初にポーズボタンを押し、次にレコードボタンを押したままでプレイボタンを押す

9 録音レベルを調節⇒次のページ

L INPUT LEVEL R

VU

11 終える時

STOP
REV
F FWD

録音レベルの調節

録音レベルの調節は、録音結果に大きな影響を与えます。歪の少ない、テープノイズが目立たない録音をするには、できるだけ高いレベルで、かつ飽和レベルぎりぎりにレベルを調節することが大切です。録音レベルを高くしすぎた場合、音が割れた歪の多い録音になります。

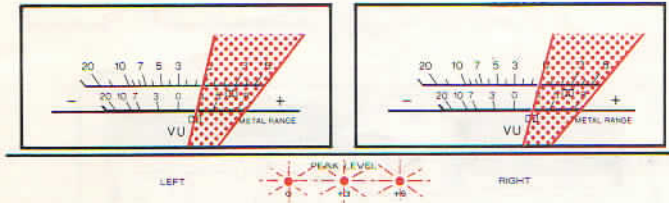
VUメーターとピークインジケーターを見ながら左右の録音レベル調節つまみを下記のように調節してください。

メタルテープ以外のテープの時

〔VUメーターの上のスケールを使います〕

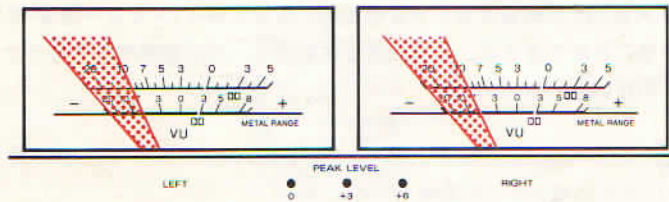
過大録音レベル〔音が割れ、歪の多い録音〕

VUメーターの針が連続して“0”をこえて振れ、+3と+6のインジケーターが点灯する場合。



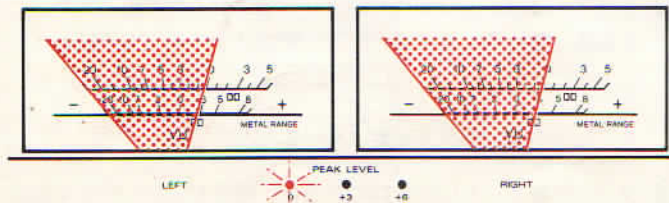
過小録音レベル〔テープノイズの多い録音〕

VUメーターの針が左側の部分でしか振れず、±0インジケーターが点灯しない場合



適正録音レベル

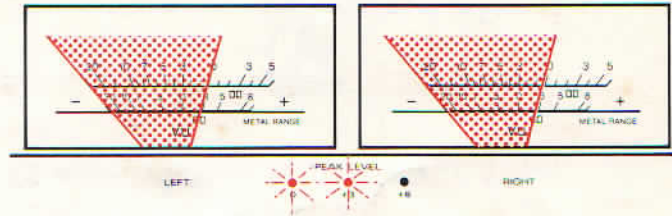
大きなレベルが入った時に、メーターの針が“0”あたりをふれまた±0インジケーターが時々点灯する時。〔瞬間的に+3インジケーターが点灯しても問題ありません〕。



メタルテープの適正録音レベル

〔VUメーターの下のスケールを使います〕

大きなレベルが入った時に、+3インジケーターが時々点灯し、メーターの針が3あたりをふれるように調節します。〔瞬間的に+6インジケーターが点灯しても問題ありません〕



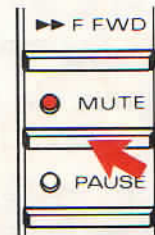
● FM放送やレコードは、あらかじめリミッターをかけてピークを抑えてありますので、録音レベルの設定は比較的容易ですが、マイクで録音する時や、生録音したテープをコピーする場合は、ヘッドホンでモニターしたり、再生音を常に自分の耳で確かめるなど、聴感上の音も大切にして適正レベルを設定してください。

● 録音時と再生時のピークインジケーターの点灯のしかたが異なる場合がありますが、これはテープの感度差によるもので多少のずれは問題ありません。

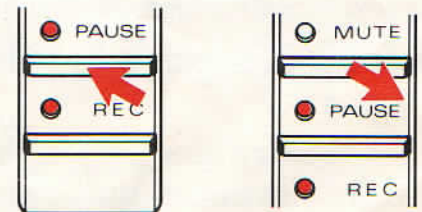
レコードミュートボタンについて

FMエアチェック中にCMやナレーションをカットして、曲と曲の間に適当なブランクを作る時に使います。

- 1 曲が終わったらレコードミュートボタンを押します。このボタンはロックされませんので必要な時間だけ押し続けてください。



- 2 ポーズボタンを押してから、レコードミュートボタンをはなします。

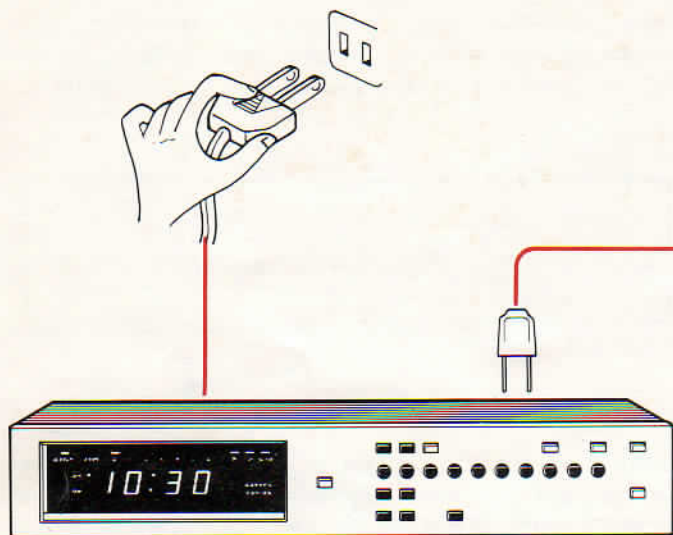


- 3 タイミングをねらって、ポーズボタンをもう一度押し次の曲の録音を始めます。

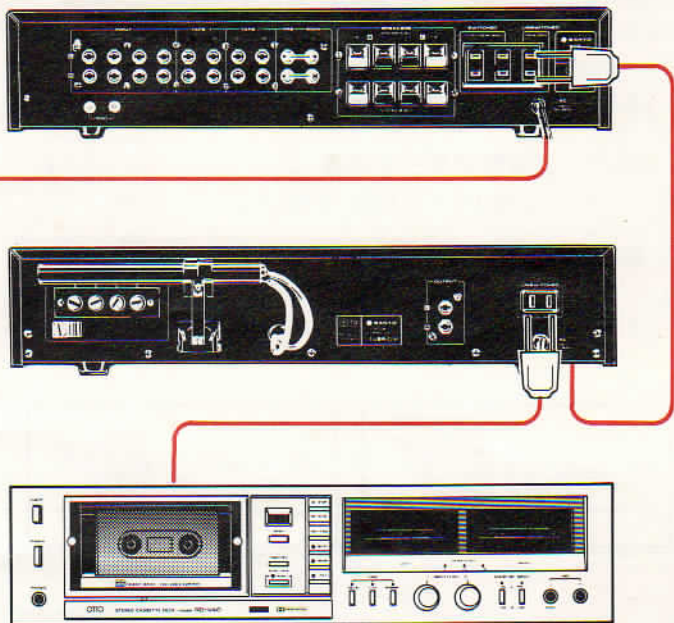
レコード針をおろす時のノイズカットやアフターレコーディング用のブランクを作る時にもお使いください。

タイマー録音のしかた

別売のタイマー〔OTTO ET-1000 か ET-3000〕を図のように接続して、ステレオシステムの電源がタイマーでON-OFF するようにすると留守録音や目覚し再生することができます。



●タイマー録音される場合は、必ず“ツメ”の折れていないカセットをお使いください。“ツメ”の折れているカセットをお使いになると、タイマーをセットした時刻になっても録音状態にはならず、デッキは自動的に再生を始めます。



留守録音〔タイマー録音〕

- 録音したいFM放送を選局して、“録音のしかた”9～10ページを参考に録音レベルを調整してください。
- タイマーを希望時刻に合わせてセットします。〔タイマーの説明書を参照してください〕
- タイマーがOFF〔切電状態〕でデッキとステレオシステムがON〔通電状態〕であることを確認してから、タイマーレコードスイッチを“ON”にセットしてください。
 - レコードとプレイボタンを押す必要はありません。
- 希望時刻がくると自動的に録音状態になり、電源が切れると自動的に停止します。
 - ダイレクトチェンジ機構ですので、オートストップが働く前に電源が切れても、デッキは自動的に停止状態になりますのでピンチローラーやテープをいためることはありません。
 - 留守中にスピーカーから音が出ないためとスピーカーの保護のため、アンプの音量ツマミを“MIN”にセットしておいてください。

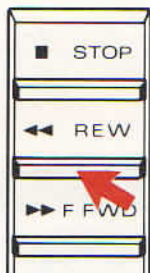
ツメを折ってあるカセットを使うと、目覚し再生〔タイマー再生〕をすることができます。目覚し再生する時は、次の順序でおこなってください。

- デッキにお聞きになりたいテープを入れてください。〔ツメの折ってあるカセットを使ってください〕
- 8ページの“再生のしかた”にしたがって一度再生をして、目覚し再生が始まったときに適した音量に、アンプの音量ツマミをセットしてください。
- テープをお聞きになりたい個所まで巻戻し、タイマーを希望時刻に合わせて、セットしてください。
- タイマーはOFF、デッキやステレオシステムがONであることを確認してから、タイマーレコードスイッチを“ON”にセットしてください。
 - プレイボタンを押す必要はありません。
- タイマーをセットした時刻になると、電源が入り、デッキは自動的に再生を始めます。
- 電源が切れるとデッキは自動的に停止します。

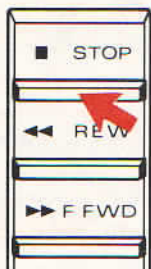
巻戻しと早送りのしかた

巻戻し

巻戻しボタンを押します。他の動作中でも直接押すことができます。



巻戻しをとめる時は、ストップボタンを押します。巻戻し中テープが全部巻き取られるとオートストップが働いて自動的に停止します。

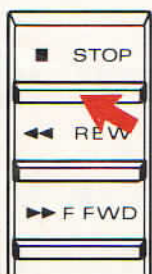


早送り

早送りボタンを押します。



ストップボタンを押すとテープはとまります。テープが全部右側のリールに巻き取られるとオートストップが働いて自動的に停止します。



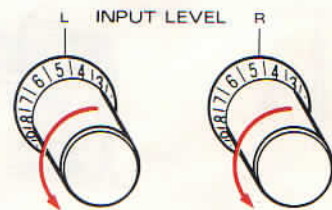
録音の消去

録音されたカセットテープに新しく録音すると前の録音は自動的に消去されますが、新しく録音しないで消去する場合は次のようにしてください。

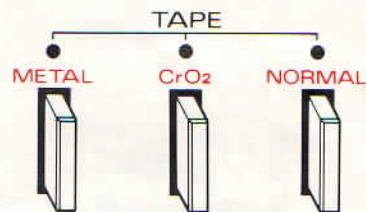
- 1 消去したい面を手前に、テープの巻かれている方を左側にしてカセットを入れてください。



- 2 録音レベル調節つまみを“0”の位置にしてください。

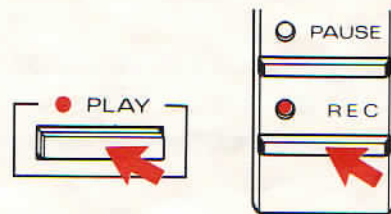


- 3 テープ切換スイッチを消去するテープに合わせてセットしてください。

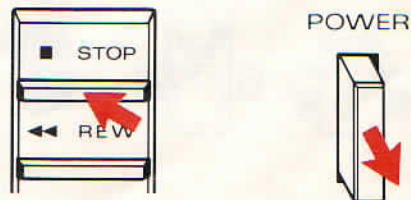


- 4 レコードボタンとプレイボタンを押して録音状態にすると消去することができます。

テープの最初から消去する場合は、必ず巻戻しボタンを押し、テープを全部巻戻してから録音状態にしてください。



- 5 消去を終える時は、ストップボタンを押します。全長にわたって消去する場合は、オートストップが働いて停止するまで待ってください。



● 消去が終了したら、必ず電源を切ってください。

お手入れのしかた

ヘッド部のクリーニング

ヘッドやピンチローラ、キャプスタンなどが汚れると、音質が悪くなったり、前の音が消去できない、きれいに録音できないなどの原因になります。これらの部品は定期的に綿棒で、汚れのひどい場合は、別売のクリーニングキット〔CLK-1000〕のクリーニング液をつけてふいてください。

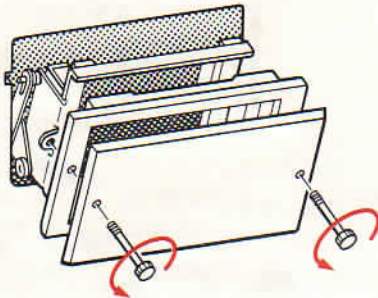
クリーニングのしかた

- 1 イジェクトボタンを押して、カセットホルダーのふたをあけ、カセットを取り出してください。

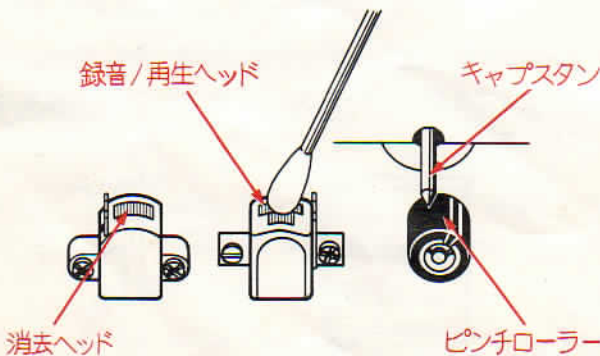
EJECT



- 2 カセットホルダーの前面のパネルの2本のネジを取って、パネルを取りはずしてください。次にカセットホルダーを奥におこみます。



- 3 綿棒でふきます。汚れのひどい場合は別売のクリーニングキットのクリーニング液をつけてふいてください。クリーニングが終了したら、カセットホルダーの前面パネルを取り付けてください。



- クリーニング液が完全に乾くまでカセットを入れないでください。

キャビネットのクリーニング

キャビネットや表面パネルの汚れは、柔かい布で、汚れのひどい場合は布に中性洗剤液を少しつけてふいてください。

ベンジン、シンナー、アルコールや化学ぞうきんでふいたり、殺虫剤をかけますと表面の仕上げをいためますので絶対使用しないでください。



石けん水



ヘッドの消磁〔電源を切ってから始めてください〕

長期間デッキをお使いになっていると、ヘッドが磁気を帯びることがあります。またヘッドに磁石やドライバーなどを近づけると磁化されることがあり、テープに雑音が入る、音が消去されるなどの原因になります。月に一度は、市販の消磁器で消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の説明書をごらんください。

保証とアフターサービスについて

- 保証書—この商品には保証書を別途添付しております。保証書はお買上げの販売店でお渡しいたしますから所定事項の記入及び記載内容をご確認の上、大切に保存してください。
- 保証期間はお買上げの日より1年間です。保証書の記載内容によりお買上げの販売店が修理いたします。その他詳細は保証書をごらんください。
- 保証期間経過後の修理についてはお買上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- カセットデッキの補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後6年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
- なお保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明な場合や、その他ご贈答、ご転居等の場合などでご不明な点は、お買上げの販売店か、別途添付の“三洋電機全国お客様ご相談窓口”にお問い合わせください。

故障かなとお考えになる前に

●修理を依頼される前に、もう一度次のことをご確認ください。それでも調子の悪いときは、お買求めの販売店にご相談ください。

故 障 ？	ここをチェックする
カセットが入らない、ふたが閉まらない	●カセットの向きは正しいですか
録音できない	<ul style="list-style-type: none"> ●接続は完全ですか ➡7 ページ ●カセットのツメが折れていませんか ➡5 ページ ●ポーズボタンが押されていませんか ●録音レベル調節つまみが“0”になっていませんか ●録音 / 再生ヘッドが汚れていませんか ➡13 ページ ●入力切換スイッチの位置は正しいですか
テープが走行しない	<ul style="list-style-type: none"> ●ポーズボタンが押されていませんか ●電源は入っていますか ●電源コードは正しく接続されていますか ●テープが最後まで巻き取られていませんか
音のバランスがおかしい、音が歪む	<ul style="list-style-type: none"> ●テープスイッチは使用するテープに合わせてセットされていますか ➡6 ページ ●ドルビーNR スイッチは ON で録音……………ON で再生 OFF で録音……………OFF で再生 ●ヘッドが汚れている ●録音レベルが高すぎるのでは ➡10 ページ ●テープの不良➡新しいテープでためす ●ヘッドが磁化されていませんか ➡13 ページ
電源を入れるとすぐに録音状態になる	●タイマーレコードスイッチが“ON”になっていませんか
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ●接続不完全 ➡7 ページ ●テープに音声は録音されていますか ●アンプの音量つまみが“MIN”になっていませんか ●アンプのモニタースイッチの位置が違う
音とびがする、前の音が完全に消えない	<p>ピンチローラーやキャプスタンの汚れ ➡13 ページ</p> <p>消去ヘッドの汚れ ➡13 ページ</p>

仕 様

電源	AC 100V、50 / 60Hz
消費電力	37W
モーター	M & Xヘッド(録/再用) 4ギャップフェライトヘッド(消去用) FGサーボ方式DD モーター(キャブスタン用) DCトルクモーター(リール用)
早送り・巻戻し時間	約 100秒(C-60 カセット使用)
トラック方式	4トラック2チャンネルステレオ
バイアス周波数	105kHz
総合S / N	ドルビーNR スイッチOFFで ノーマルテープ } クロームテープ } 59dB (WTD、1kHz、3% THD) メタルテープ } ドルビーNR スイッチONでS / N改善量は、5dB [1kHzにて]、10dB [5kHz以上]
テープ速度	4.75cm / 秒
総合ひずみ率	1.0%…ノーマル、メタルテープ 1.2%…クロームテープ
周波数特性	ドルビーNR スイッチOFFで メタルテープ 20 ~ 20,000Hz クロームテープ 20 ~ 18,000Hz ノーマルテープ 20 ~ 17,000Hz
ワウ・フラッター	0.04% [JIS WRMS]
使用半導体	IC : 10 トランジスタ : 70 ダイオード : 80 [内L.E.D.12]
入力ジャック	マイクジャック(標準ジャック)……………2 最少入力レベル 0.3mV 適合マイクインピーダンス [600Ω ~ 10kΩ] ライン入力ジャック(ピンジャック)……………2 最少入力レベル 70mV 入力インピーダンス 50kΩ
出力ジャック	ライン出力ジャック(ピンジャック)……………2 最大出力 480mV 出力インピーダンス 2kΩ ヘッドホンジャック……………1 最大出力 30mV 適合インピーダンス 8Ω ~ 1kΩ
大きさ	440 (幅) × 106 (高さ) × 290 (奥行) mm
重さ	約 6kg
付属品	接続コード……………2本

この仕様は性能改善のため、予告なく変更することがあります。

 SANYO / 三洋電機株式会社

本 社	〒570 大阪府守口市京阪本通り2-18	TEL.06 (991) 11181
東 京 支 社	〒101 東京都千代田区外神田6丁目15-13	TEL.03 (835) 11111
営 業 本 部	〒570 大阪府守口市大日東町100	TEL.06 (901) 11111
オーディオ企画部		